
七夕の伝説

桜桃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

七夕の伝説

【Nコード】

N6593U

【作者名】

桜桃

【あらすじ】

題名のとおり、今年もやってきました。七夕の話です。結構短いですが、見てください。

『なあ、知ってつか？蘭。』

七夕はな、わし座の1等星アルタイル。彦星とこと座の1等星ベガ。織姫が一年に1度だけ逢うことを許された日なんだぜ。』

小さい頃、えらそうな顔をして話す新一が蘭にとって、

格好良くて、憧れでもあった。

「ねえ、お母さん！今日って七夕なんでしょ？」

「そうよ。」

「なあ、母さん！七夕ってわし座の1等星アルタイル。彦星と

こと座 の1等星ベガ。織姫が 一年に1度だけ逢うことを許された日。なんだろう!？」

「どうして・・・それを・・・」

「父さんに聞いたんだ!」

蘭は小さく「なるほどね。」とつぶやく

「ええ。そして、2人は天の川を渡って会っの。すっごくロマンチックだと思わない?」

愛莉は目を輝かすが、湖南はそうでもなさそう。

「ったく・・・ホントあの大バカ推理之介にそっくりなんだから。」

人差し指で湖南の額をつつく。

「あつ! そうだ、私ね、この本を読んでもらおうと思って
哀お姉ちゃんから貸してもらったの!」

「哀ちゃんに?」

「うん!」

差し出した本には『七夕の伝説』と書かれていた。

「夜空に輝く天の川のほとりに、天帝の娘で織女と呼ばれるそれは美しい天女が住んで居ました。

織女は、天を支配している父天帝の言いつけをよく守り、毎日機織りに精を出していました。

織女の織る布はそれはみごとで、五色に光り輝き、

季節の移り変わりと共に色どりを変える不思議な錦です。

天帝は娘の働きぶりに感心していましたが、年頃の娘なのに化粧一つせず、恋をする暇もない娘を不憫に思い、

天の川の西に住んでいる働き者の牽牛という牛飼いの青年と結婚させることにしました。

こうして織女と牽牛の二人は、新しい生活を始めました。

しかし、結婚してからの織女は牽牛との暮しに夢中で毎日はいしゃぎまわってばかり。

機織りをすっかり止めてしまったのです。

天帝も始めはこんな二人の様子を新婚だからと大目にみていましたが、

いつまでもそんな有様が続くと眉をひそめざるを得ません。

天帝はすっかり腹を立ててしまい、二人の所へ出向くと、

「織女よ、はたを織ることが天職であることを忘れてしまったのか。

心得違いをいつまでも放っておく訳にはいかない。

再び天の川の岸边に戻って機織りに精を出しなさい」更に付け加えて・・・

「心を入れ替えて一生懸命仕事をするなら1年に1度、7月7日の夜に牽牛と会うことを許してやろう」と申し渡しました。

織女は牽牛と離れて暮すのがとても辛く涙にくれるばかりでしたが、父天帝に背く事もできず、

牽牛に別れを告げると、うな垂れて天の川の東に帰って行きました。

それ以来、自分の行いを反省した織女は年に1度の牽牛との再会を励みに、

以前のように機織りに精を出すようになりました。

牽牛も勿論思いは同じ、働いて働いて・・・7月7日を待ちました。

こうして、牽牛と織女は互いの仕事に励みながら、指折り数えて7月7日の夜を・・・

ところが、2人が待ち焦がれた7月7日に雨が降ると、

天の川の水かさが増して、織女は向こう岸に渡ることができなくなります。」

「ええっ！どうして？かわいそうだよ！」

「そうよね・・・でも、理由があるの。聞いて？」

川下の上弦の月がかかっている、つれない月の舟人は織女を渡してはくれません。

2人は天の川の東と西の岸边にたたずみ、

お互いに切ない思いを交しながら川面を眺めて涙を流すのでした。

「

「やっぱり、かわいそう！」

「ごちゃごちゃうるせーな。ちゃんと聞けよ！」

「だってえ！」

「くすくすっ

7月7日に雨が降れば．．．そんな2人を見かね何処からともなくかさぎの群が飛んできて、
天の川で翼と翼を広げて橋となり、織女を牽牛のもとへ渡す手助けをしてくれるのだそうです。」

「わぁ、素敵い！」

愛莉が騒いでいると、新一が帰ってきた。

「ただいま」

「お父さん！」

愛莉は玄関まで走っていく。

リビングに残される蘭と湖南。

すると湖南が声を漏らした。

「そっぴゃ、哀姉ちゃんが言ってた．．．
父さんと母さんが彦星と織姫だって．．．」

「え．．．？」

「どういう意味なんだろうな．．．」

蘭は

「哀ちゃんつたら・・・」

と恥ずかしそうにつぶやいた。

（後書き）

今回、新一の台詞は「ただいま」

だけでしたが、ご了承ください！

桜桃

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6593u/>

七夕の伝説

2011年10月7日03時33分発行